



祥雲館では、認知症ケアに関し、関西福祉科学大学都村尚子教授の指導により、バリエーションを導入し、認知症高齢者とのコミュニケーションを重ねてまいりました。ただ、地域

価値観の多様化と高齢化に伴う新たなコミュニケーション法への転換

『五感対話法』

への誘い

「真の『共感』と信頼構築のコミュニケーション」

福祉を視野に入れた場合、日本特有の背景や傾向を踏まえたコミュニケーション法の必要性を強く感じ始めておりました。

アプローチすべきはスピリチュアルペイン

都村教授は、バリエーションの研究を重ねていく中で、「自己の存在の無意味・無目的・無価値からくる苦しみ」や「自己の存在と意味の消滅から生じる苦痛」(スピリチュアルペイン)を抱え、コミュニケーションに困難さを呈している人々(認知症高齢者、末期癌等難治性疾患患者、自殺念慮者等)とのコミュニケーション法の確立が急務と捉え、新たに『五感対話法』を確立されました。



第86号

発行：令和2年4月1日



社会福祉法人 豊悠福祉会

祥雲館

人生の学校

〒563-0101

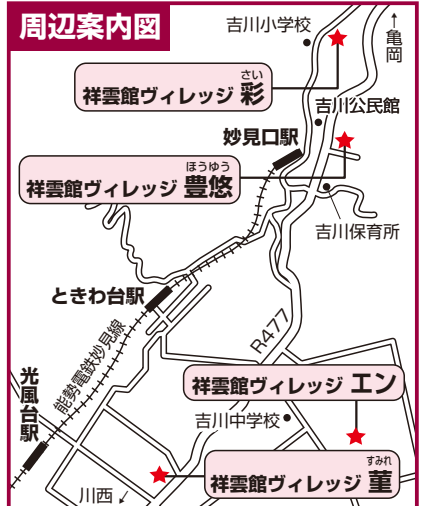
大阪府豊能郡豊能町吉川187-1

TEL：072-733-2301(代表)

FAX：072-733-2303

番号をお間違いないようご注意ください

周辺案内図



全人的ケアを目指して

『五感対話法』は、人は様々な喪失を経験することにより、自身の存在の根底に関わる問いや痛み(スピリチュアルペイン)を抱える。その痛みと喪失の過程に対し、五感を使って寄り添い、信頼関係を構築することによって彼らのスピリチュアルペインを受け止める。これまで多くのケア現場において困難であったスピリチュアルペインへの共感を伴うコミュニケーションによって、全人的ケアを目指すものです。

認知症ケアへの新たな一歩

祥雲館は、『五感対話法』を導入し、認知症をはじめ、自らの存在に対する問いや痛みを抱え、対話に困難を感じている人々のための豊能発のスピリチュアル・ケアとしての『コミュニケーション法』を展開してまいります。

総合施設長就任のご挨拶

このたび、4月1日付をもって総合施設長に就任することになりました。

微力非才の私にとりまして、総合施設長就任は身に余る重責でございます。しかし、大任をお受けしましたからには、副施設長での経験を生かし、誠心誠意職務に尽力する覚悟でございます。

平成28年、厚労省の専門家会議で、社会福祉法人は、「その専門性と地域における信頼感、存在感を活かし、地域における公益的な取り組みの枠組みも活用しながら、我が事、丸ごとの地域づくりに取組むことを推進すべきである」とされました。祥雲館が有します、設備やスタッフ、そして、これまで培ってまいりました知見(知識、経験、ネットワーク等)をフル活用し、地域共生社会の実現に尽力しなければなりません。

小さなお子様から高齢の方、障がいのある方、地域の方、スタッフ、様々な人が集い、支え合い、語り合い、そして学び合いができる場を提供していける『人生の学校』のような法人とすることが、私に与えられたミッションであると考えております。

2025年問題、2040年問題と介護・福祉を取り巻く状況は厳しさを増しており、加えて国難ともいべき新型コロナウイルス感染症拡大の危機にも瀕しています。しかし、ここは敢えて時代の荒波に立ち向かい、辛いことを避けず、時に大胆に、時に果敢に、勇気を持って仕事にあたってまいります。常に施設理念であるArt&Scienceに立ち返り、今日より明日、明後日と変化を恐れず、果敢さと向上心を持って創造的な仕事を目指してまいります。

令和2年4月1日
社会福祉法人 豊悠福祉会
総合施設長 井口 仁

退任のご挨拶

このたび3月31日をもって、祥雲館施設長を退任いたします。

平成11年の祥雲館開設以来、皆様に支えられて今までまいりましたことに、改めて、感謝を申し上げます。

祥雲館は、新しい施設長のもとに職員一同、地域の皆様と共に、更なる共生社会を目指して、歩みを続けてまいりますので、なお一層のご支援ご指導を賜りますようお願い申し上げます。誠にありがとうございます。

令和2年3月31日

小林 修

新型コロナウイルスへの対応について

当法人では、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、各事業所の面会制限やイベント自粛などの対応を取らせていただいております。

ご迷惑、ご心配をおかけいたしますが、ご協力よろしくお願いいたします。

令和2年3月 祥雲館感染症対策委員会

新型コロナウイルス感染拡大に伴うイベント中止のお知らせ

今年度予定しておりました下記イベントについて、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、開催が難しいと判断させていただきましたのでお知らせいたします。

【4月 祥雲館ボランティア懇親会】

【5月 祥雲館 TOYONOCOLLECTION2021】

また、4月以降の地域イベント（笑雲café、ダンディ倶楽部・エン、すみれcafé、介護教室など）につきましても、状況をみながら開催を検討させていただきます。イベント開催につきましては、ヴィレッジ・エンの掲示板や、ホームページ、Facebook等でお知らせさせていただきます。

【地域交流スペース En-GAWAの利用自粛】

3月12日～しばらくの間、En-GAWAの利用を制限させていただきます。

【祥雲館町おこしプラザ】

『森のフェスティバル2021』を7月26日(日)に開催を予定しておりますが、今後の状況等によっては、延期または中止となることも予想されます。詳しくは、決まり次第随時、お知らせさせていただきます。

ボランティア募集

祥雲館では、高齢者、障がい者・障がい児の福祉サービスのサポートをしていただける方を募集しています。

(例えば) レクリエーションサポート（おやつ作りや趣味の活動など）、手芸・制作活動、外出レクの付き添い。など

得意なことを社会福祉にいかしてみませんか。

問合せ先：祥雲館地域交流委員会 ☎072-733-2302（担当：ゴンジン）

【ボランティア活動へのお礼】

祥雲館ボランティアの皆様、祥雲館の活動にご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。本来なら、懇親会で日々の活動への感謝の意をお伝えさせていただきたく思っておりましたが、こちらにて感謝申し上げます。引き続き、祥雲館ボランティアをよろしくお願いいたします。また、ボランティア保険加入をご希望の方は、上記問合せ先までご連絡をお願いします。

TOPICS

★大阪府民カレッジ公演

大阪府民カレッジ豊能・能勢校の皆さんによる寸劇や歌の公演がありました。豊能町に伝わる物語「亥の子物語」の劇や、懐かしい歌と一緒に歌ったりと、楽しい時間を過ごしました。



★東ときわ台自治会「介護よもやま講座」

東ときわ台自治会にて、認知症の基礎知識や介護についてなど、お話しさせていただきました。皆さん熱心に聞いていただき、地域福祉への関心の高さを感じました。地域みんなで支えあえる社会を築いていきたいと思ひます。



★いきいき百歳体操

東ときわ台の地域交流スペース En-GAWAで、高齢者住宅「やわみどり」の入居者さんたちと「いきいき百歳体操」を始めました。入居者だけでなく、地域の方の参加も増え、20名ほど参加いただいています。百歳になっても元気で暮らせるために。



TOPICSはホームページでも詳しくご覧いただけます。

祥雲館

検索

facebookはこちら⇒



祥雲館 facebook

検索

次号は、令和2年6月25日～30日配布予定です。

放課後等デイサービス「発達応援スクールほたるぼし」

放課後等デイサービスは、小学1年～高校卒業までの障がいや発達に特性のあるお子様が、放課後や夏休みなどの長期休暇に利用していただく福祉サービスです。集団活動を通して、家と学校以外の居場所や友達を作ることができます。

ほたるぼしは、昨年10月に開所し、豊能町・能勢町・箕面森町のお子様にご利用いただいています。豊能町の自然の中で、散歩に出かけたり、公園で遊んだり、屋外での活動を積極的に取り入れ、その中で子ども同

士の関わりや、地域の方との交流といった体験を大切にしています。

また、同一敷地内の高齢者住宅の入居者と一緒に季節イベントを開催し、おじいちゃん、おばあちゃんとふれあう機会も作っています。

このように、ほたるぼしでは、住み慣れた地域でいつまでも安心して暮らせるよう、地域の方々にも支えていただきながら、子どもたちの未来につながる支援を行っています。

「ほたるぼし」についてもっと知りたい方

◎ほたるぼし見学・体験を随時受付いたします。

要予約／☎072-733-2184（担当：池田・武田）

お気軽にご連絡ください。



おまかせヘルパー ～あるある10選～

- ヘルパーは決められた時間内でサービスを提供します。そんなヘルパーさんのあるあるを紹介します。
- 調理は周りを見ながら
- 塩と砂糖を間違えそうになる
- 煮物を火にかけながら他の用事をする時、焦がしそうになる……セーフ!!
- 最新家電の使い方がわからない
- ブレーカーが落ち、どこにあるか探す
- 利用者宅へ行くまでに
- 訪問先の近くまで来て、周辺をぐるぐる回る
- 間違えて、利用者宅の隣の家のドアホンを鳴らす
- 何事も細心の注意を
- 訪問すると留守。倒れているかもと心配するが、外出中とわかりホッとする。
- 訪問宅で床がきしみ、ヒヤリ！ 体重のせい?!
- 自分の上着や眼鏡などを訪問先で忘れて帰る
- お風呂やトイレに携帯を落とし慌てて拾い上げる



編集後記

近年のIT化によりインターネットを通じて、同じ所にいなくても顔を見ながら会話でき、資料を共有することができるようになりました。今回のコロナウイルス感染拡大で、自宅に居ながら仕事ができるテレワークが注目です。しかし、福祉の仕事は、人との関わりや交流することから始まります。今何ができるか、考えて行動したいと思ひます。

広報担当 滝本